

2023年7月25日

「多様な体験活動の機会づくりと参加促進」について

國學院大學 青木康太郎

1. 体験活動について

今後、体験活動を推進していくに当たっては、体験活動の教育的な効果だけでなく、こどもにとって体験活動を行う意義を分かりやすく伝えていく必要があると考える。また、こどもの体験活動の現状と課題を鑑みると、今後は体験活動の機会づくりに加え、そうした場への参加促進の手立てを講じていくことも必要になってくる。

(こどもにとって放課後や休日に体験活動を行う意義)

- ・自分の良さや強み、才能などに気づく機会になる。
- ・自分のやりたいことやがんばれることに会い、没頭できる機会になる。
- ・学校では学べないことを学ぶ機会になる。
- ・学校での学びや経験を実社会で活かし、実践する機会になる。
- ・多様な人々と出会い、交流する機会になる。
- ・家族の絆を深める機会になる。
- ・心の居場所になる。

(こどもの体験活動の現状と課題)

- ・昔のこどもに比べ、今のこどもは自然の中で遊んだ経験が少なく、体力も運動能力も低い状況にある。しかし、こどもが自由にのびのびと遊べる場所や環境も少なくなっている。
- ・最近では、家族や友達と一緒に自然体験を行う機会は増えつつあるものの、公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加したこどもの割合は少なくなっている。その理由として、「こどもが関心を示さない」だけでなく、保護者が「時間的負担が大きい」と感じていたり、「団体や行事があることを知らない」ことが挙げられる。
- ・放課後や休日に行われる体験活動は、家庭の経済状況や保護者の考えに左右されやすいことから、成育環境によってこどもの体験に格差が生じている。経済的に厳しい家庭のこどもの約3人に1人が1年を通じて学校外の体験活動を何もしていない状況にあったり、こどもと一緒に体験活動することに苦手意識をもつ保護者のこどもほど、放課後や休日の運動やスポーツの経験、ボランティア活動や地域行事への参加、文化芸術に触れる体験が少ない傾向にある。

(体験活動を推進するための方策)

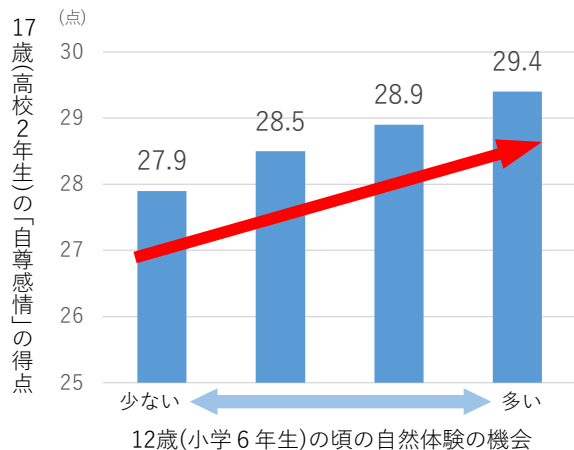
- ・こどもの成長に応じた多様な体験活動の推進
- ・困難を抱えるこども・若者の体験活動の充実
- ・こどもの育ちにおける体験活動の意義に関する社会的理解の促進
- ・体験活動のイベント情報等に手軽にアクセスできるプラットフォームの構築
- ・家庭の経済状況に応じた参加費の補助や参加に掛かった費用の税額控除等の経済的支援
- ・教職課程における「生涯学習（又は社会教育、地域連携等）」に関する科目の必修化
 - 青少年教育施策関係予算の増額
 - 青少年の体験活動を推進するための法律の制定

2. 読書活動について

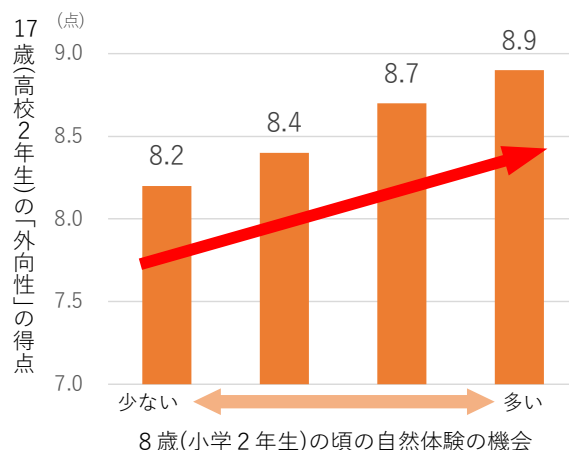
こどもの読書離れが進むなか、読書の教育的な効果を示すことに加え、「読書好きを育てるヒント」（本を持ち歩く、同じ本を繰り返し読む、ジャンルを問わず読むなど）や「家庭・地域・学校でできること」（子供と一緒に本を読む、読みきかせ、読書を通じて感じたこと考えたことを話すなど）など、読書活動を推進するために必要な具体的な取組についても示していくことが大切であると考えます。

小学生の頃に“自然体験”をよくしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊心や外向性が高くなる傾向がみられる

小学生の頃の自然体験と高校生になった時の意識の関係



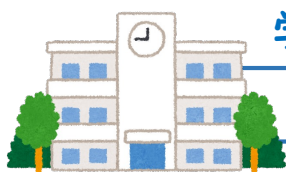
小学6年生の頃の自然体験と高校生になった現在の自尊心の関係



小学2年生の頃の自然体験と高校生になった現在の外向性の関係

文部科学省(2021)「令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告」

青少年教育施設での体験活動を通じた往還的な学びによる汎用的な資質・能力の育成



学校

教科等の学習を通じて身に付けた資質・能力

資質・能力の活用・実践

往還的な学習

体験活動を通じて得た学びや気づきをその後の学習の土台と捉え、関連する教科等の学習を行う際はそれらを想起させながら指導することで、**生きて働く知識・技能の習得**につなげる。

例：野外炊事の火起こし(5年)
→理科の「燃焼の仕組み」(6年)



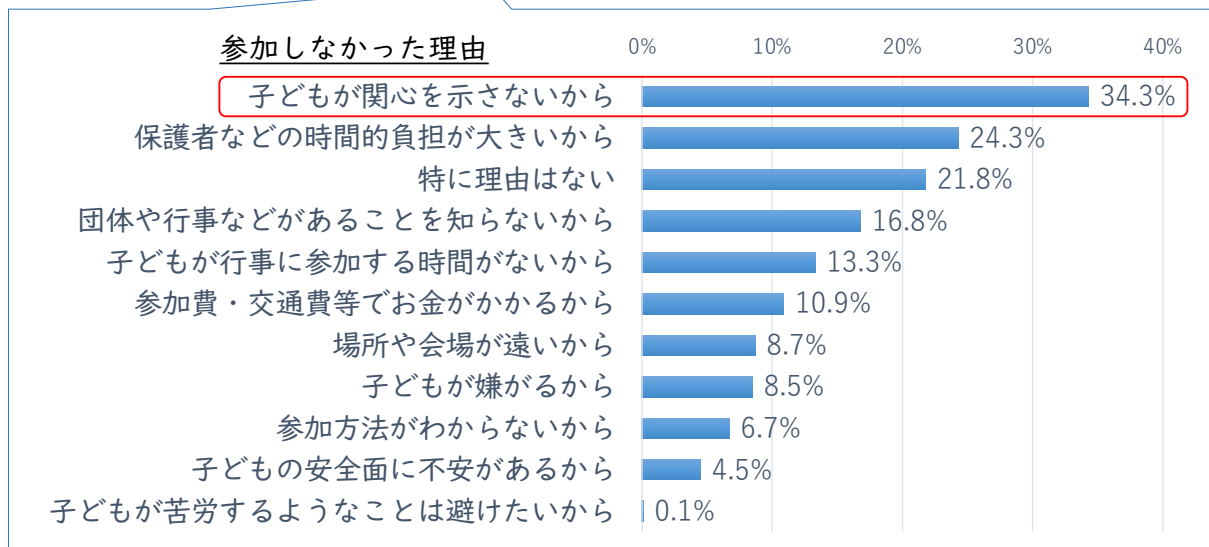
青少年教育施設

- ✓ 各教科等における見方・考え方を総合的に働かせながら、身に付けた資質・能力を**実際の場面**(体験活動、生活体験等)での課題の発見や解決で活用・実践してみることで、**汎用的な資質・能力の育成**を図る。
- ✓ 学校では経験できない活動(自然体験活動、集団宿泊活動等)を通じて、**実体験から新たな学びや気づき**を得る。

公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加しなかった理由について 3割以上の保護者が“子どもが関心を示さないから”と回答

公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加しなかった小学生の割合

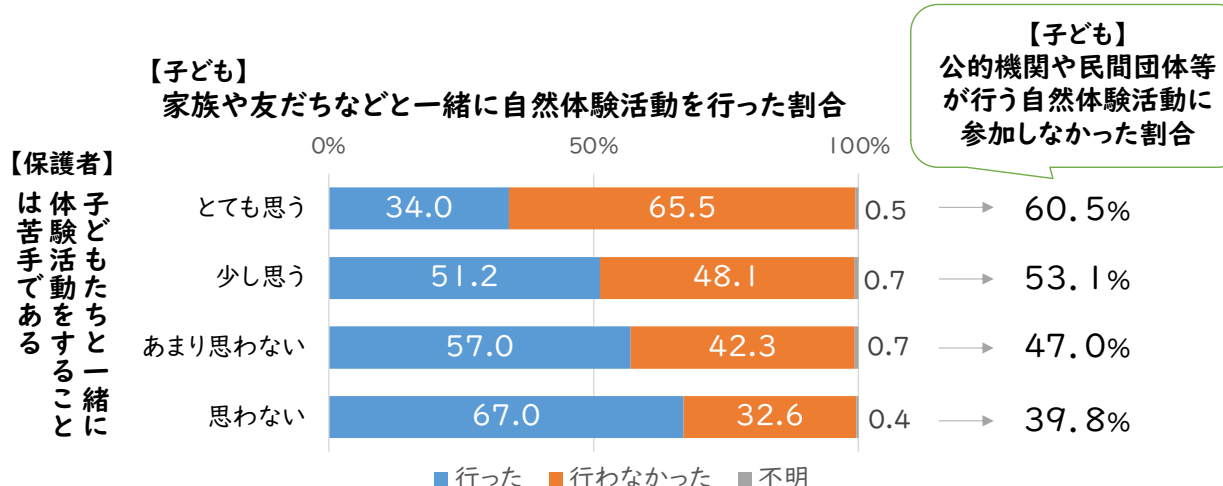
31.4%(H20) → **46.8%**(R1) | 5.4ポイント増加



国立青少年教育振興機構(2021)「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度調査)等を参考に作成

3

「体験活動が苦手」と思っている保護者の子どもほど、 体験活動の機会が少ない傾向がみられる



- ✓ 「子どもたちと一緒に体験活動をするのは苦手」と思っている保護者のこどもは、放課後や休日の運動やスポーツの経験、ボランティア活動や地域行事への参加、文化芸術に触れる体験も少ない傾向にある。
- ✓ 子どもの頃に自然体験が少なかった保護者ほど、「子どもたちと一緒に体験活動をするのは苦手」と思っている保護者が多い傾向にある。

国立青少年教育振興機構(2021)「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度調査)等を参考に作成

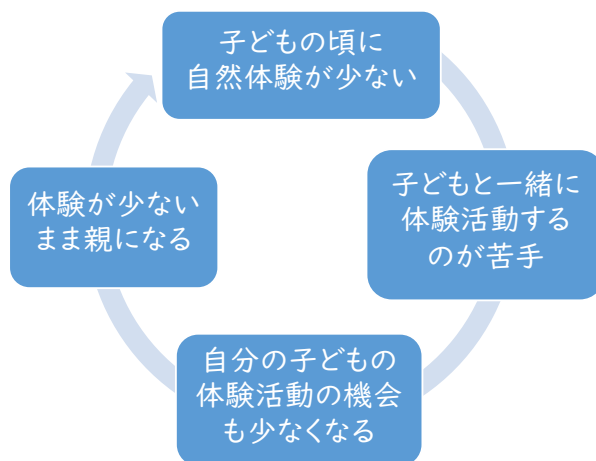
4

体験不足の連鎖

子どもの頃に**自然体験が少なかった保護者**ほど、「**子どもと一緒に体験活動をするのが苦手**」と思っている。

そうした思いをもつ**保護者の子ども**ほど、自然体験をはじめ、放課後や休日の運動やスポーツの経験、ボランティア活動や地域行事への参加、文化芸術に触れる体験など、**体験活動の機会が少ない傾向**にある。

保護者が子ども時代に体験が不足していると、子どもと一緒に体験活動をすることに**苦手意識**をもちやすくなり、自分の子どもも体験活動の機会が少なくなるという**体験不足の連鎖**が生じ、体験格差を助長することが危惧される。



多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境

体験を通して育成したい12の資質・能力

誕生 → 社会人

自己肯定感、積極性、コミュニケーション力、礼儀作法、健康管理、やり抜く力、学ぶ力、健康観、自律心、公共心、協調性、徳徳観、勤労観

子どもの成長を支える20の体験

自然体験	文化芸術体験	科学体験	社会貢献	生活習慣	人とのかかわり
キャンプ、登山、スキー、クラフト等	音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等	科学実験・工作、ロボット制作、プログラミング等	ボランティア活動、環境保護活動、地域清掃、まちづくり等	規則正しい生活、早起き、歯ごしらえ、お風呂、入浴、ごみ分別、ごみ捨て等	家族とのかかわり、先生とのかかわり、友達とのかかわり、地域のかかわり
グループ活動、委員会、部活動、クラブ等				読書、読小説、絵本、漫画、新聞、雑誌等	
				お守り、おまじない、おまじない、おまじない、おまじない等	
				家族行事、誕生日のお祝い、お正月、お盆、お彼岸、お彼岸、お彼岸等	
				運動・スポーツ、スポーツ少年団、スポーツクラブ、運動会等	
				動物とのふれあい、生き物の飼育、植物の栽培、自然観察等	
				探究学習、調べ学習、体験学習、課題研究、自由研究、自主学習等	
					先生とのかかわり、先生に認められる、先生に叱られる、先生に励まされる、先生に認められる等
					友達とのかかわり、友達に認められる、友達に叱られる、友達に励まされる、友達に認められる等
					地域のかかわり、地域の人に認められる、地域の人に叱られる、地域の人に励まされる、地域の人に認められる等

“体験する”ということの考え方

- ✓ “体験する”ということは、何かしらの活動（自然体験、遊び、学習等）や行為（人助けをする、けんかする等）を“すること”だけを意味するのではなく、その活動や行為を通じて得られる感情（うれしい、感動、悲しい、悔しい等）や気づき（分かる、発見する等）、学び（理解する、できるようになる等）など、いわゆる**体験の質**に関わる部分も含まれる。
- ✓ “体験する”ということには、自らが動いたり働きかけたりする**能動的な体験**だけではなく、他者からの働きかけ（褒められる、叱られる等）など**受動的な体験**も含まれてくる。



体験活動

自然体験 キャンプ、登山、カヌー、サイクリング、スキー、クラフト等	集団活動 子ども会、委員会、係、クラブ 等	地域行事 祭り、スポーツ大会、音楽祭、交流イベント 等	社会貢献 清掃活動、募金活動、慰問活動、環境保全活動、地域おこし、まちづくり 等
職業体験 農林漁業体験、インターンシップ、職業体験型テーマパーク 等	文化芸術体験 音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等	科学体験 科学実験・工作、ロボット制作、プログラミング 等	国際交流体験 国際交流事業、ホームステイ、イングリッシュキャンプ 等

体験の質に目を向けることが大切!

- ✓子どもが**夢中になって取り組める活動**か
- ✓子どもが**心を動かされるような体験**ができるのか
- ✓そのことを通じて、子どもが**どういった気づきや学び**が得られるのか

生活習慣

規則正しい生活 早寝、早起き、朝ごはん、洗面、歯磨き、入浴 等	遊び おにごっこ、かくれんぼ、ブランコ、滑り台、おもちゃ、ごっこ遊び 等	お手伝い 買い物、料理、掃除、ゴミ出し、洗濯、くつ磨き 等	家族行事 誕生日のお祝い、お墓参り、大掃除、季節行事 等
運動・スポーツ スポーツ少年団、スポーツクラブ、部活動 等	読書 読み聞かせ、絵本、小説、まんが、新聞、雑誌 等	動植物とのふれあい 生き物の飼育、植物の栽培、自然観察 等	探究学習 調べ学習、体験学習、課題研究、自由研究、自学自習 等

子どもの成長を支える 20の体験

人との かかわり

家族とのかかわり 家族にほめられる、親に叱られる、親に勉強をみせもらう、家族と遊ぶ、親にしつけられる、親と将来の話をする、家族の看病をする、兄弟の世話をする 等	友達[®]とのかかわり ※同級生、先輩、後輩等 友達にほめられる、友達に注意される、友達から認められる、友達から尊敬される、友達と遊ぶ、友達とけんかする 等
先生[®]とのかかわり ※教師、指導者等 先生にほめられる、先生に叱られる、先生に相談する、先生に認められる、先生に仕事を任せられる、先生と遊ぶ 等	地域[®]の人とのかかわり ※保護者や先生以外の大人等 地域の人にほめられる、地域の人に注意される、地域の人に相談する、地域の人に認められる、地域の人に遊んでもらう、地域の人に勉強をみせもらう 等

子どものまわりにいる大人は・・・
 子どもを温かく見守りつつも、様々な体験を通じて子どもを**褒めたり、励ましたり、悩みを聞いたり、時には叱ったり**しながらうまく関わり合いをもつようにし、**心の成長を促す働きかけ**を積極的に行っていくことが必要!

子どもの成長を支える環境づくりの視点

視点1. **どのような体験**をするのか？

(体験の内容)

視点2. **いつ体験**するのか？

(体験の時期)

視点3. **どのように体験**するのか？

(体験の質)

視点4. 体験を通して**どのように関わる**のか？

(体験を通じた人との関わり)

9

年齢期を踏まえた系統的・体系的な体験活動の推進

幼児期の自然体験・外遊びの推進

・主に家族を対象に、自然体験・外遊びに取り組みやすい環境を整備

学童期の集団宿泊活動の推進

・低学年のうち、幼児期の体験を意識しつつ、主に日帰りの自然体験や短期(1~3泊程度)の集団宿泊活動を実施

・低学年から高学年にかけては、自然体験、農山漁村体験、伝統・文化体験、科学体験、国際交流体験など徐々に体験の幅に広がりをもたせつつ、主に長期(1週間以上)の集団宿泊活動を実施

青年期の地域貢献活動の推進

・中学生は、小学校高学年の体験を引き続き推進していくとともに、職業体験や奉仕体験など、身近な地域や社会とのつながりが感じられる体験活動を実施

・高校生は、身近な地域や社会に目を向け、地域住民の一人として地域の課題解決に向けた取組を実践する活動(地域貢献活動)を実施

10

私たち大人ができることは？

子どもたちの読書を支えるためには、様々な人々の連携・協力が不可欠です。



家庭では？

子供と一緒に本を読む



読書を通じて感じたこと考えたことを話す



読みきかせ



図書館に行く！

地域(図書館等)では？



学校等では？



民間団体では？



*「令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめ」(文部科学省、令和4年12月) 参照

多様な体験を土台とした子どもの成長に向けて

将来、社会を生き抜く資質・能力を身につけた大人になるためには、子どもの頃から様々な活動に挑戦し、多様な経験を積み重ねていくことが必要です。そのためには、周りにいる大人が、子どもの生活環境のなかに意図的、計画的に多様な体験の場や機会を作っていくことが大切になります。子どもの成長を支える20の体験のなかから、今回は「読書」をテーマに、環境整備を考えました。今日から始められることを、子どもたちと楽しみながらやってみましょう。



「子どもの成長を支える20の体験」リーフレットはこちら➡



読書好きを育てるヒント

子どもの成長を支えるために大人ができることは？



読書活動により養われる子どもたちのチカラ



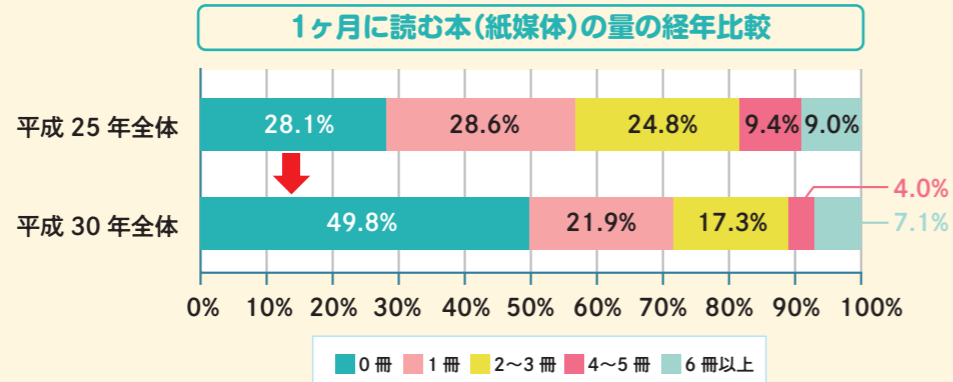
進む読書離れ

*「令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめ」(文部科学省、令和4年12月) 参照

国立青少年教育振興機構が平成30年に行った調査から、読書活動のいまが見えてきました。

1 読書量の実態

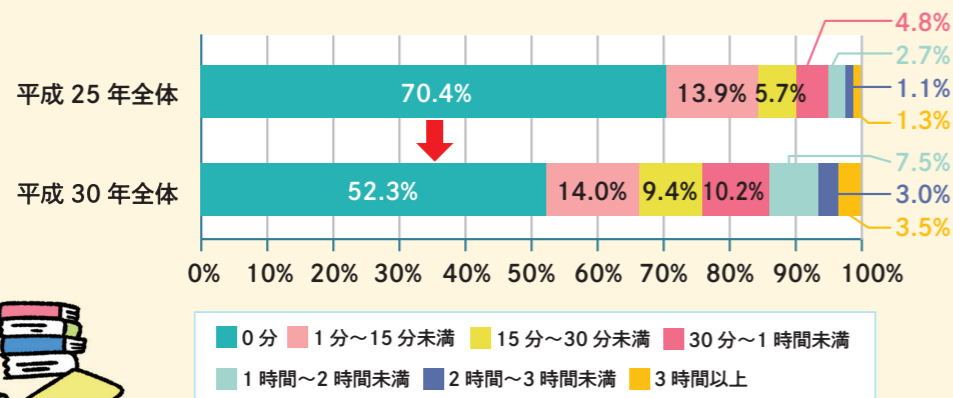
- ▶子どもに限らず全ての年代の人の読書離れが進んでいます。
- ▶特に、1ヶ月に読む本の量が0冊と回答した人の割合は、年代に関係なく大きく増加していて、平成30年の調査では**全体の約半数が全く本(紙媒体)を読んでいない**と答えていました。



2 スマホ等で読む人は増加

- ▶紙媒体の読書が減る一方で、**電子媒体の読書は増えています。**

携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日あたりの読書時間の経年比較



調査結果の詳細はこちら↓



*「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」(国立青少年教育振興機構、令和3年3月)より

「読書好き」を育てるヒント

同じく平成30年の調査では、小学校・中学校・高校を通した読書量の多さに繋がる経験が示されました。

7つのヒント

- 1 本を持ち歩く
- 2 地域の図書館で本を借りる
- 3 同じ本を繰り返し読む
- 4 ジャンル問わず読む
- 5 本文以外の部分も読む
目次 前書き 解説
- 6 図書委員、子ども図書、読書コンシェルジュの活動
- 7 絵本を読む

又吉さんの経験からのヒント

お笑い芸人として活躍する一方で、読書家としても知られる又吉さん。ご自身の読書との関わり方についてのお話の中に、「**読書好き**」を育てるヒントを見つけました。

1. 小学生の頃の読書：興味から始まる図書

Q. 小さい時から、どのように読書に親しんでこられたのですか？

又吉さん：小学生の時、教科書に面白い話があったので、授業の進む速度と関係なく先まで読んでいました。そこで興味が出てからは、学校の図書室や地域の図書館に行って借りて読んでいました。

2. 思春期の頃の読書：本を自然に手に取り持ち運ぶ読書

Q. 今は動画やSNSがあり、10代くらいになると、もっと面白いことも出てきて本を読まなくなる時期が来ることもあると思いますが、そのような時期の読書については、どう考えますか？

又吉さん：強制ではなく自分から本を手にとって開いてみようと思う瞬間が、一番いい状態で本と出会っているのだと思います。僕の場合、通学時間を活用して読んでいるときが読む速度を自分で選べたので、特に楽しい時間でした。

3. 多様な本と出会う読書

Q. コロナ禍での読書活動の変化について、教えてください。

又吉さん：昔から書店に行くのが大好きで、これを買うという目的を持っていくけれど、目的の本の棚に辿り着くまでに、目に入った本であるとか、予定になかった本と出会うのがすごく楽しいです。コロナ禍でここ数年書店に行く機会が少なくなり、周りの人から新しい楽しみ方を勧めてもらったりしながら楽しんでいます。

4. 紙の本全部を楽しむ読書

Q. 又吉さんは、読書をする際、紙派ですか？

又吉さん：紙の本が好きです。読書が好きなのは、装丁とか、そのデザインとか、文字の組み方と内容が、どのようにデザインされているのかということも含めて、本そのものも好きだからです。装丁のデザイナーさんなど、1冊の本を作るためにいろんな人が関わっているということも含めて、読書を楽しんでいます。

又吉直樹氏(吉本興業)

1980年大阪府寝屋川市生まれ。吉本興業所属のお笑いコンビ「ピース」として活動中。2015年に本格的な小説デビュー作『火花』で第153回芥川賞を受賞。同作は累計発行部数300万部以上のベストセラー。2017年には初の恋愛小説となる『劇場』を発表。最新刊に10年ぶりのエッセイ集『月と散文』、他の著書に『人間』『東京百景』『第2図書係補佐』などがある。YouTubeチャンネル【渦】、オフィシャルコミュニティ【月と散文】も話題となっている。



*上記は、令和4年4月23日に実施された「子ども読書の日記念『子どもの読書活動推進フォーラム』」内のシンポジウム「子ども時代の読書活動の重要性」にパネリストとして登壇された又吉直樹さんの発言から抜粋したものです。